

平成28年度 自己評価表 （計画段階・実施段階）

福岡県立直方特別支援学校長 印

学校運営計画（4月）				評価（総合）	
学校運営方針	幼児児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自己実現と共生社会の形成に向けて、心豊かな人間性を培うとともに、自立・社会参加し、主体的かつ個性豊かに生き抜く力を育成する。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
3教育部門を併置する学校として、組織的な学校運営に努め、教育部門間相互の理解が図られた。障害種ごとの専門性の向上と教育活動や支援の充実、及び情報発信に更に努力する。	幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	個別の教育支援計画に基づいた個別の指導計画の作成、指導及び評価の充実		A	
	人権教育の推進と人権に配慮した教育環境の整備	幼児児童生徒一人一人が大切にされていると実感できる場の工夫や雰囲気づくり			
	学校行事等を通じた幼児児童生徒の相互理解の推進	儀式的行事、体育的行事及び文化的行事の合同実施の推進			
	教職員の専門性の向上と組織としての指導体制の充実	教職員の研修体制の整備と教育部門別の専門的研修による実践的指導力の育成			
	地域における特別支援教育のセンター的機能の充実	特別支援教育等に関する相談・情報提供機能の強化			
	交流及び共同学習の推進	幼稚園、小学校、中学校、高等学校等との連携の推進			
	地域に開かれた学校づくりの推進	ホームページ等の充実による積極的な情報発信及び学校評議員制度を活用した教育活動の評価及び見直し			
教職員の不祥事防止意識の向上	体罰や飲酒運転、個人情報の漏洩等に関する不祥事防止研修の充実及び防止のためのシステムづくり				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
学校運営	3教育部門を有する学校として、組織的・合理的に学校を運営する。 不祥事ゼロの学校を目指す。	会議の精選や会議の効率的な運用の在り方を探る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 企画委員会、運営委員会の計画的・効率的な運用を図る。特に、重要事項について関係者会議を計画的に実施し、解決策を適宜周知しながら、主任主事を中心に教職員の学校経営参画意識を高めるとともに、風通しの良い学校運営に努める。 大量退職・大量採用の流れの中、教職員の士気の高揚と主体的な能力開発・人材育成に努める。 不祥事ゼロを目指し、互いに日常の指導や言動等に目を向け、リスクを感じた場合には即報告する体制をつくるとともに、適宜主任主事等から情報を収集し、研修の充実を努める。
		分掌組織に基づいて、分掌・部門・学部間の連携・協力体制を強化する。	A		
		学校全体の行事、各教育部門・学部行事について相互に把握する。	A		
教育課程	個別の教育支援計画や指導計画等を見直し、個に応じた指導の充実を図る。	体罰によらない指導の徹底のため、学部等にチェック機能をもたせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各教育部門の実態に合った合理的配慮等の観点を含めた様式の運用に向けて共通理解を図る。 定期的に各教育部門・学部の教育課程を見直し、幼児児童生徒の実態に応じた教育課程を編成する。また、該当がない類型においても、編成しておく等の工夫が必要である。 学校全体で連携を図り、実態に合わせながら、指導内容・方法の工夫改善を行っていく。
		個人情報の取扱い要領に基づいて、管理の徹底を図る。	B		
		飲酒運転やセクハラ防止等の研修を実施するとともに、適宜注意喚起する。	A		
研修	教員の資質・専門性の向上を図るため、研修・研究の充実を図る。	個別の教育支援計画の様式や運用方法について検討し、活用の充実を図る。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> グループ研究のまとめを踏まえて教育部門別に次年度のグループ研究の内容について検討を行い、教育課程実践交流会の分科会発表に向けた準備を進める。 休業期間中などに全校で研修日を設定し、教育部門別及び学部別の研修会を実施する。
		障害の状態及び発達段階、特性等に応じた教育課程を編成する。	A		
		各教育部門、学部、学年、学級ごとに連携を図りながら、指導内容・方法の改善を適宜行う。	A		
人権・同和教育	幼児児童生徒の自尊感情や障害認識を育むとともに、教職員研修の充実と関係諸機関との積極的な連携を図る。	教育課程実践交流会に向けた研究計画を立案し、グループ研究の充実を図る。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に従った取組がほぼ実施できた。教職員の人権意識の向上及び幼児児童生徒の自尊感情、障害認識の育成、3部門間の「仲間づくり」や、差別をはね返す力を身に付けさせる人権学習等の充実が求められる。
		研究授業を計画的に実施し、参観する体制を工夫する。	A		
		職員のニーズに応じた教育部門及び学部別の研修会を実施する。	C		
情報教育	情報教育、情報発信の充実とともに、情報漏洩防止のための管理に努める。	人権教育の取組に関する記録を集約し、成果と課題を明らかにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に従った取組がほぼ実施できた。教職員の人権意識の向上及び幼児児童生徒の自尊感情、障害認識の育成、3部門間の「仲間づくり」や、差別をはね返す力を身に付けさせる人権学習等の充実が求められる。
		年5回の校内研修会を実施し、年2回の校外研修会への参加を調整する。	A		
		関係諸機関と連携し、本校の取組を保護者や地域に発信していく。	B		
庶務	学校と保護者・関係諸機関との連携を深め、PTA活動や同窓会活動の充実を図る。	ICT活用の積極的推進に資する研修会を実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用教育に関する研修会は、時間は十分に取れなかったものの、次年度の研修につながるデータを得ることができた。ホームページの見直し、更新については、今後も随時行っていく。個人情報データ管理については、引き続き次年度の重要課題となる。
		ホームページの更新を通じて、本校教育活動について広く発信する。	B		
		USB等を含む、個人情報データの管理を徹底する。	B		
幼児児童生徒指導	幼児児童生徒の諸問題の解決を図る。	PTA役員との連携を深め、PTA活動の効率化を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度よりPTA広報紙の制作を外注にしたため、個人情報の管理方法や業者との連絡などの面で今後検討が必要。同窓会行事については、参加者の実態や本校行事との関係等を考え、来年度運営方法の見直しを行う予定。互助会地区福祉事業への参加を増やすための工夫が必要。
		新しい同窓会に対応できるよう、行事の運営方法について再検討する。	B		
		互助会福祉事業の推進に努める。	C		
保健・安全	幼児児童生徒が健康で安全かつ衛生的な生活を送るための、校内体制の整備に努める。	幼児児童生徒の状況を随時把握し、共通理解をする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 諸問題発生時の職員の適切な対処方法について再度共通理解する。 幼児児童生徒の状況確認を毎日行い、適宜職員間にて共通理解する。
		緊急対応訓練やいじめを含む問題行動の未然防止授業を行う。	A		
		職員間や家庭、関係機関と連携を密にし、生徒指導上の課題に適切に対応する。	A		
センター的機能	巡回相談、教育相談、通級による指導等の充実を図る。	緊急時シミュレーションの充実をはかる（緊急時対応マニュアルの改善など）	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルの充実を図る（随時見直し改善）。 食物アレルギー対応について知識の習得や対応の仕方について充実を図る。 職員清掃区域割の見直しを図る。
		食物アレルギーや医療的ケア、てんかん発作等に関する校内研修の充実を努める。	A		
		清掃活動の充実及び円滑なゴミ処理運営計画を立てる。	A		
進路指導	幼児児童生徒の自立と社会参加へ向けた取組を推進する。	各部門の専門性を生かし、相談依頼先のニーズに応じた巡回相談を実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> より一層相談依頼先との連絡を充実させ、当該児童生徒の状態や支援ニーズの把握に努める。 相談件数の増加が著しく、責任をもって対応できる人材の育成が必要である。 連絡協議会では個別の指導計画をもとに指導内容等の検討を重ね、実際の指導に反映させる。
		アセスメントの充実を図り、年齢や成長段階に応じた教育相談を実施する。	A		
		通級による指導担当者連絡協議会を開催し、在籍校と連携する。	A		
寄宿舎	学校と連携し、舎生の安全と健康を第一に考え、舎生が安心して寄宿舎生活を送ることができるようにする。	進路情報を収集し、適切に発信していく。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成のため、予定していた具体的方策により、取組を推進することができた。次年度は、今まで以上に情報を発信し、保護者や関係機関との連携を密にすることが課題である。
		関係機関との連携を図る。	A		
		実習や体験、進路学習を通して進路についての意識付けを行う。	A		
事務	学校と連携し、舎生の安全と健康を第一に考え、舎生が安心して寄宿舎生活を送ることができるようにする。	学校と寄宿舎の担当者間で連携し、組織的に諸活動に取り組む。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校、寄宿舎が舎生に対し同じ認識を持ち、指導に当たることが大切である。そのためには、常に担当者同士が連携し、保護者も含めて協力し合う。舎内の安全と安心を心掛け、安全点検と避難訓練を実施していく。特に授業については、複数の職員が確認し合って確実に行う。
		安全点検、授業確認、避難訓練を実施し、安全・安心な生活の充実を努める。	B		
		保護者と連携を図りながら、個々の課題に適切に対応する。	A		
事務	予算削減と環境整備班の導入の中、計画的予算執行と施設設備の充実を図る。工事における安全管理の徹底を図る。	運営委員と連携を図り、経費の削減に努め、効率的な予算執行を行う。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校幼児児童生徒の実態を考慮すると効率重視の予算執行を行うのが難しい。職員からの施設設備面への要望は、ほぼ実現化できている。安全面を第一に考えながら工事業者との連携・調整に努める。
		施設設備関係の要望を踏まえ、優先順位を付けながら対応する。	A		
		安全管理を行うため、工事業者との連絡・調整を確実に行う。	A		